1. 評価結果概要表

作成日 平成22年4月6日

【評価実施概要】

事業所番号	0174100560		
法人名	有限会社 M&Y		
事業所名	グループホーム 鶴ヶ岱		
所在地	北海道釧路市鶴ヶ岱3丁目7番6号 (電話) 0154-41-4165		
評価機関名	タンジェント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年5月6日

【情報提供票より】(平成22年2月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)16年5月25日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	11人
職員数	15人	常勤	13人, 非常勤 2人, 常勤換算 8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋3階建	造り
	3階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000円	その他の経費(月額)	10,000~12,000円	
敷金	有(60,000円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(60,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	円	1ヶ月	25,000円

(4) 利用者の概要(2月28日現在)

利用者人数	11名	男性	0名	女性	11名
要介護1	3名	要介護2	1名		
要介護3	5名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 82.18歳	最低	65歳	最高	96歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	釧央脳神経外科病院、島津歯科医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームはペンションを改築した3階建ての建物の1,2階を利用し、「家族、地域と共に支え合う生活」を理念として、ケアの質の向上に取り組んでいます。環境に恵まれている地区に立地しており、日常の散歩のコースとして自然を満喫しながら春採湖の散策やショッピングモールへ買い物に行くなど利用者と共に楽しく過ごしています。町内会の一員として、会議や行事に参加したり、町内会合同の防災訓練で地域の方々の協力を得ています。又、近郊の専門学校から文化祭への招待や定期的にレクリエーションや大正琴、ハーモニカ演奏のボランティアの訪問を受けています。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価では改善点の指摘はありませんでした。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は、ケアを振り返る機会と捉え職員全員で話し合い作成しています。前回の評価結果は真摯に受け止め、改善点は職員全員で話し合い改善に向けて取り組んでいます。又、運営推進会議の際に評価結果を報告し、ホーム内の誰でもが見られる場所に置いています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は、年6回実施されています。主な議題は ホームの現状について 年間行事実施報告 外部評価等について 町内会合同防災訓練の報告 在宅療養を支援する診療所の先生の説明会
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 毎月、「鶴ヶ岱通信」で利用者の日常の様子や健康状態がわかるように報告し、金銭管理も毎月領収書を添付して送付し、体調の変化時には、都度電話連絡などで詳細に報告しています。又、家族会や運営推進会議で、意見や苦情等を外部の委員に聞いて貰う機会を設け、そこでの意見は全職員で話し合い結果を速やかに家族に報告しています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会の一員として、会議や行事に参加し、町内会合同の防災訓練も参加しています。又、地域の方々の協力を得て緊急連絡網も作成しています。又、近郊の専門学校から文化祭への招待や定期的にレクリエーションや大正琴、ハーモニカ演奏のボランティアの訪問も受けています。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	職員全員で話し合い出来た理念の中に「家族、地域と共に支え合う生活」を掲げ、利用者が地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えるサービスとして職員間で共有されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員は、会議や引き継ぎ、カンファレンス等様々な場面で理念を話し合う機会を作り、その中で理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。又、共用空間にも掲示をしてあるほか、生活記録のファイル台帳にも貼付している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として会議や行事に参加し、町内会合同の防災訓練で地域の方々の協力を得ている。又、近郊の専門学校から文化祭への招待や定期的にレクリエーション、大正琴、ハーモニカ演奏のボランティアの訪問もある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、自分達のケアを振り返る機会と捉え、職員全員で話し合い作成している。評価結果は真摯に受け止め、改善点は職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。又、運営推進会議の際に評価結果を報告され、ホーム内の誰でもが見られる場所に置かれている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年6回開催されている。メンバーは利用者、家族、町内会長、副会長、総務部長、民生委員、シニア部長、婦人部長、包括支援センター所長、釧路町訪看所長、及び管理者・職員で構成されホーム運営やサービス向上に活かしている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市担当者との連携の重要性については十分に理解し、管理者が必要時にその都度、市役所に出向いて担当者と話し合っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、「鶴ヶ岱通信」で利用者の日常の様子や健康状態がわかるように報告し、金銭管理についても毎月領収書を添付して送付している。又、体調の変化については都度電話連絡などで詳細に報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会の際に、意見や苦情を言い易い雰囲気作りに努めている。家族会や運営推進会議で意見や苦情等を外部の委員に聞いて貰う機会を設けている。又、家族や利用者からの意見、苦情は全職員で話し合い結果を速やかに家族に報告している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員が長期間に渡って勤められるように、仕事上の悩みや相談事を聞くように心掛け馴染みの職員の支援を受けられるように取り組んでいる。やむなく退職する場合は、利用者にはダメージがないように全体でフォローするよう心掛けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム連絡協議会での様々な研修に参加しており、会議の際に参加した職員から研修報告が行われたり、ホーム内でも定期的に勉強会を行いケアの質の向上に取り組んでいる。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会での様々な研修や勉強会、交換研修などを通じ交流する機会を持っている。又、包括ケア会議などにも参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族に来院して戴き、ホームの雰囲気にならんで貰えるように取り組んでおり、お茶を飲んだり一緒に歌を歌うなど、他の利用者に関わるようにしながら雰囲気に慣れていただくよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	センター方式を利用して、利用者の習慣や生活歴を把握するよう努めている。調理などの家事全般を利用者と一緒に行うように努め、喜怒哀楽を共にし、本人と共に支えあう関係構築に努力している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、表情や会話から利用者の希望や意向の把握に努め、職員間で記録や申し送りで情報を共有している。公園でご飯を食べたい、行きたいお店があるなどその時々希望が実現できるように支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との日常の会話や係わりの中で本人、家族からも情報を収集し介護計画に反映している。又、課題は、管理者及び担当職員を中心に、本人や家族、職員全員の意見や希望を取り入れ現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護支援専門員の適切な監理のもとに、介護計画書に記載している個別の期間を目安に計画的に見直しが行われている。又、利用者の状態変化に応じて期間終了前であっても随時、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況に応じて、通院の支援や本人の希望、要望がある場合には、買い物や散歩、気晴らしのドライブなど本人の希望にそって支援している。又、町内会の会議に参加し、認知症ケアの啓発や地域の方の相談にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からのかかりつけ医に継続して受診出来るように支援している。医療連携している訪問看護ステーションからは運営推進会議にも出席されて協力体制がとられている。又、内科・歯科の往診も行われ、看護師資格を持つ職員も配属されている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ご家族に重度化した場合や終末期のあり方について看取りを含めた医療をどこまで望まれるのかなどについてアンケートを取り健康管理書を作っている。又、医療機関と連携し利用者・家族とも早い段階から話し合い慎重に対応するよう全職員で方針を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の記録等の個人情報の取り扱いについて、十分に注意を払い取り扱っている。利用者一人ひとりの主体性を損なわないような言葉かけや介助を心掛け、プライバシーや羞恥心の配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの決まりや都合を優先するのではなく、本人のその日の希望や意向を把握し、体調を踏まえ、散歩や買い物、ドライブ等の外出の機会やホーム内での家事全般の役割ごとなど本人の希望に添って支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みを把握し、献立に反映させるよう心掛け、普段から料理の下ごしらえや配膳の準備、食器洗い等職員と利用者が一緒になって行っている。又、その日の体調に合わせて、食べやすい食事を提供している。お弁当を持って花見や野外昼食会など戸外で食事を取る機会も作っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2～3回を目安に入浴の支援を行っており、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴が楽しめるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の習慣や生活歴を把握し、利用者の力量に合った家事全般の役割ごとへの支援を行っている。又、カラオケやドライブなどの楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物などの支援は、日常的に行われており、別保公園でのお花見やお弁当持参での近所の公園散策、他のグループホームのお祭りに参加している。又、昆布森、恋問館、海を見にドライブに行くなど戸外に出かけられるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、夜間以外は施錠は行わず、自由に出入りできる状況にある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域の協力を得ながら緊急時に全ての職員が速やかに対応ができるように利用者と共に実技を伴う火災避難訓練を年2回実施している。又、火災等の緊急時対応マニュアルと地域やホームの緊急連絡網を作成している。		今後は、夜間を想定した避難訓練を実施すると共に更に運営推進会議を通じて地域の方々をお願いする役割を明確にし協働できるような取り組みを期待します。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量が記録され、一回の食事が必要量を摂ることができない本人には、一日を通じて摂取できるよう支援されている。又、体調や嚥下状態などに合わせた食事の提供をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の壁には、季節に合わせたディスプレイや行事・外出時などに撮られた写真、利用者が書いた習字などが飾られている。イスやソファを配置し、好きな場所で自由に過ごしてもらえるように工夫している。又、利用者にとって、不快な音や光を感じらないように配慮している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具類は本人が使い慣れたものや馴染みの物を持ち込まれ、家族との写真や本人の趣味の作品等を飾り居心地よく過ごせる環境作りに努めている。又、各居室には温度計を設置している。		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。